

平成 21 年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

1. 共同利用種目 (該当種目にチェック)

- 特定共同研究(A) 特定共同研究(B) 特定共同研究(C) 一般共同研究
 地震・火山噴火予知研究 施設・実験装置・観測機器等の利用
 データ・資料等の利用 研究集会

2. 課題番号または共同利用コード 2009-A-22

3. プロジェクト名、研究課題、集会名、または利用施設・装置・機器・データ等の名称

和文：濃尾断層系における歪・応力集中過程と破壊様式解明のための総合的研究英文：Study of stress and strain accumulation around Nobi fault system4. 研究代表者所属・氏名 東京大学地震研究所・岩崎貴哉(地震研究所担当教員名) 岩崎貴哉・飯高隆

5. 利用者・参加者の詳細 (研究代表者を含む。必要に応じ行を追加すること)

氏名	所属・職名	利用・参加内容または 施設,装置,機器,データ	利用・参加期間	日 数	旅費 支給
勝俣啓	北海道大学・准教授	観測機器の設置	3泊4日	4	無

6. 研究内容 (コンマ区切りで3つ以上のキーワードおよび400字程度の成果概要を記入)

キーワード：濃尾地震断層, 内陸地震, 歪集中帯

本研究は、京都大学防災研究所をはじめとする全国の大学・関係機関と共同で、濃尾地震断層を取り囲む地域において大規模な地球物理学的総合観測を実施している観測研究の一環である。この濃尾地震断層系は、GPS観測より検出された新潟・神戸歪集中帯に位置する日本列島の中でも地殻歪みの蓄積速度が大きい地域であり、1891年に内陸地震として国内最大規模の濃尾地震が発生した断層系である。これまでに新潟・神戸歪集中帯に位置する岐阜県跡津川断層を中心とした領域で総合観測がなされ、地下構造と地震発生との関係について新たな知見が得られた。この観測研究は、これまでに得られた知見をもとに、より一般的な結論を得ることを目的に、濃尾地震断層地域における観測研究を実施しているものである。この地域における内陸地震発生メカニズムを解明することにより、活断層への応力集中過程を明らかにし、内陸大地震の発生予測の研究をおこなうものである。

7. 研究実績報告 (公表された成果のリスト*1または2000~3000字の報告書)

(*1論文タイトル、雑誌・学会・セミナー等の名称、謝辞への記載の有無、ポイント数、電子ファイル添付のこと)